

浄

monthly
JODO
1997.11

土



善光寺晋山記念

1997

11

November

法然上人鑽仰会・発行



テレコムしよう。



コミュニケーションの未来へ
日本テレコム

お申し込み、お問い合わせはお客様センターへどうぞ。

☎ 0088-82 (無料) または 0120-0088-82 (無料) [受付時間] 9:00~23:00 (年中無休) [インターネットホームページ] <http://www.japan-telecom.co.jp/service/>

善光寺大本願

第百三十一世 鷹司誓玉上人



列をなす信者の頭にお数珠頂戴をする鷹司誓玉上人。朝の勤行のあと善光寺本堂前にて

明るく活発なお人柄を感じさせるインタビューでの笑顔



鷹司栄子（のち誓玉）さんを表紙にした
「朝日グラフ」昭和三十年四月十三日号



善光寺大本願本堂

鷹司誓玉上人の法号は、本蓮社願誓深阿誓玉



鷹司栄子さんの入山式の模様。お導師を勤められているのは第百十九世の大宮智栄上人



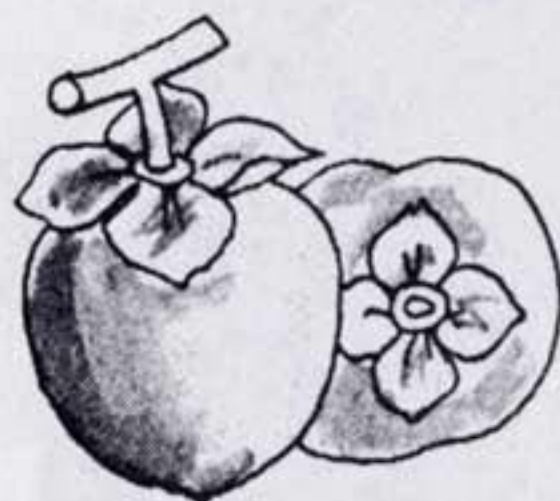
大本願本堂うらの渡り廊下で。右から
 第百二十世一條智光上人
 第百二十一世鷹司誓玉上人
 法嗣の大宮智真尼

浄土

1997/11月号 目次

善光寺大本願 鷹司誓玉上人に聞く	聞き手 宮林昭彦	8
ご挨拶	鷹司誓玉	24
法然上人と私	松本章男	26
表紙は語る	岡 克巳	33
連載小説 法然上人をめぐる人々	石丸晶子	34
日常仏教語		43
御法語に聴く		44
いい加減にしろ		49
ホットアングル	利根川 裕	50
若和尚のチョットいいはなし		55
うまい野菜と料理の話	我田 大	56
Jフォーラム		63
事務局便り		68
編集後記		70

表紙題字＝浄土門主 中村康隆猥下
 表紙撮影＝岡 克巳
 アートディレクション＝近藤十四郎



善光寺大本願第二百一十一世

鷹司哲王上人

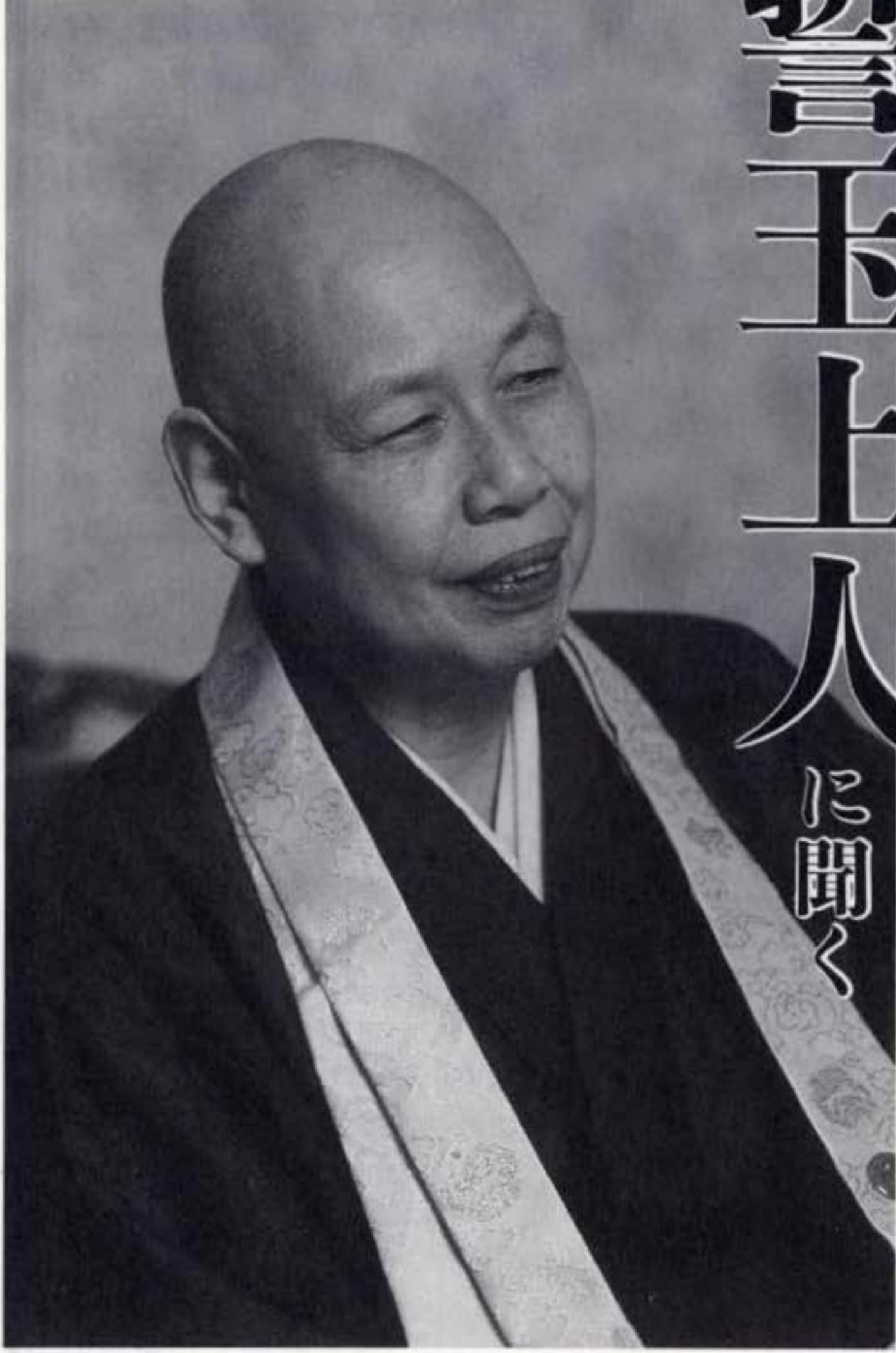
に聞く

●聞き手●

宮林昭彦

●撮影●

西村新二



宮林 本日は大御前（一條智光・いちじょうちこう・前大本願法主台下）と御前（鷹司誓玉・たかつかさせいぎよく・新大本願法主台下）におそろしいただいてお話しを聞かせていただくことになりますが、よろしくお願いいたします。いよいよこの十月二十八日の晋山式で法灯が継がれることになりますね。

一條 また次の御開帳といったら七年も先になりますので、この辺で鷹司さんにお譲りしないと、と思ひまして。

宮林 模範的な禪譲でございますね。

一條 わたくしももう御開帳を副住職時代から十三回も努めさせていただいております。御開帳は七年に一度でございますから、随分と長い時間が過ぎたということでございますね（笑い）。

宮林 十三回ですか、その記録はなかなか破れませんね。破れませんといったら、新しい御前に失礼ですね。あと十二回は頑張っていただかないと。

鷹司 いえ、わたくしももう七回御開帳を努めさせていただいていますから。

宮林 あつ、そうですか。それではあと六回ですから、すぐですね。

鷹司 いえいえ（笑い）。

一條 鷹司さんもう七回になられますか。

鷹司 はい、昭和三十六年からです。

宮林 御前は東京のお生まれと聞いておりますが。

鷹司 はい、東京の杉並でございます。小学校二年までは東京に居りました。



二人並んでインタビューにお答えいただいた。右が一條上人。左が鷹司上人

宮林 小学校はやはり女子学習院ですか。

鷹司 はい、ですが父が転勤で大阪堺市の水族館館長になり引っ越しました。

宮林 お父さまの転勤で大阪へですか。お父さまは何をされていた方ですか。

鷹司 父はおさかな、といっても熱帯魚ですが、その専門家でございました。

宮林 それで堺市の水族館館長に。そうすると学校も変わられた。

鷹司 はい、大阪へ移りまして女学校の二年まで居りましたが、その頃はあまり体が丈夫ではなくて、最初に通った学校が遠いので近くの学校に転校いたしました。それでもまだ遠くてもっと近い学校に変わりました、ですから大阪では三つの学校に通いました。

そうこうしてますうちに戦争が激しくなつて勉強どころではなくなりました。ですが、学習院ならまだ勉強ができるだろうという親の意向でまた学習院の三年に戻りました。ところが、四年の時に戦争で学校が焼けてしまい五年制度のものが四年で卒業となりました。そうした時代でしたから女学校で真空管などを作ったこともございます。

宮林 学習院はやはり当時も皇室にご縁のあるかたの学校でしたでしょうが、それでもそういうことがあったのですか。

鷹司 ええ、学習院はそういう方ばかりでしたが、真空管を作りました。

大本願は開山以来女性の僧侶がその住職となるお寺で、尼公（にこう）上人と



鷹司上人一歳のお祝いの写真。この写真の着物が小袖屏風になっている

呼ばれる。しかも代々、皇室と関係の深い家から選ばれる。新住職の鷹司家は平安時代以降に摂政関白を務めた五摂家のひとつで、かつての華族である。ちなみに前法主の一條家も五摂家。また、鷹司上人の女子学習院の小学校の同級生であられた昭和天皇の三女、孝宮和子内親王は鷹司法主台下のご尊父の長兄のご子息に嫁がれている。

宮林 その学習院を卒業されて、慶応義塾大学へ行かれた。

鷹司 いえいえ、よく誤解されるのですが、慶応義塾大学は通信教育で卒業いたしました。女学校卒業当時はまだ旧制の学校制度で京都の女専（女子専門学校）に通いました。そして卒業後大阪の女専に就職し、助手をしておりました。ちやうどその頃に新しい大学制度になりまして、その制度に合わせるために大を出た方が良いと思い、勤めながら慶応義塾大学を通信で卒業いたしました。

宮林 そうだったのですか。いや、長野にも女専がありました。わたしの先輩でやはり助手の方がいました。よく覚えていますが助手といっても研究をしたり、論文を書いたり大変な仕事という記憶が強いのですが、ご専門は史学でしたか。

鷹司 はい。

宮林 そうしたどちらかといえば学者の世界から、こういったことで大本願に入られたのですか、その辺のご縁をお聞かせください。

鷹司 実は一條上人のお母さまとわたくしの母が従姉妹でございまして、わた



鷹司上人一歳のお祝いの着物とお田様の着物が対の小袖屏風

くしには大伯母の関係になります。そうした関係もあり、母がこちらにお参りに来ました時に一條上人からそろそろ後継者が欲しいのですがというお話しがあつたそうです。

宮林 ほう、そうして。

鷹司 当時、わたくしは日本史を学んでいたのですが、日本史を学ぶにはどうしても仏教を学ばなくてはと思つていたところでした。そこにこのお話してしただから、お受けさせていただこうと思ひまして……。

一條 ちょうどその頃大宮上人（一條上人の前の大本願法主台下）が後継者が現れますようにと、毎月戸隠に願をかけにいらしていらつしやつたのでございますよ。

宮林 ほう、毎月戸隠へですか。

一條 はい、毎月でしたから、そのお気持ちの程がわたくしにもしつかり伝わって参りました。

宮林 よく仏縁仏縁と言いますが、まさに仏縁ですね。そうしますと、素直にお受けされたのですね。

鷹司 ええ、始めは何も知らずに気軽にお返事をしてしまひまして……。ですが大本願に入るといふことがどういふことかだんだんわかつて参りまして、とてもわたくしでは務まらない、とずいぶんぐずぐずして三年ぐらいは経ちました。

宮林 ほう。



一條上人

鷹司 わたしくは大学に勤めているだけで実際に講義をしたこともございませ
ん。そんな身でお寺に入っても多くの人の前で話せるわけでもなし、とても無
理でございますと、お断りしたのです。

そうしましたら、ご心配には及びません。お話しはちゃんと布教師という方
がされますので心配いりません、と、うまうまとのせられたのです（笑い）。

宮林 なるほど（笑い）。

一條 その頃は参拝の皆様の前でいう口上が決まっておりましたから、確かに
色々話すことはございませんでした。

宮林 そうですね、私も覚えていますが、ずっと襖が開いて大宮御前が本当に
一言二言お話しされるとまたすつと襖が閉まる。本当に一瞬でしたね。

一條 実はそれをわたくしに変えてしまったのです（笑い）。決まり文句以外に
一言しやべり、二言しやべりしているうちにだんだん多くなって（笑い）。

宮林 そうだったのですか、それでは当時はお話しはなかったわけですね。そ
して入山されたわけですが、得度式のこととは私もよく覚えています。

鷹司 前日に入山して翌日の昭和三十年三月二十六日に得度いたしました。入
山にあたっては母が白無垢を作ってくれました。

宮林 お母さまが白無垢をねえ。仏さまにお嫁にゆくという思いがあったので
しょうね。

一條 実はその頃の雑誌が残っておりますのよ。

昭和三十年三月号の『朝日グラフ』は表紙に鷹司栄子（しげこ）さんの写真を、そして「浄土に春を求めて」と題する四ページの記事を掲載している。その冒頭を転記してみよう。

しめやかな如来唄、哀調をおびたショウの音について、善光寺（長野）大本願住職、大宮智栄上人の読経がはじまると、参列する一〇〇人あまりの人々の瞳には涙がひかり、すすり泣く声さえもれてきた。だが、白リンズのウチカケに黒髪を長くたらしめたこの日のヒロインは人形のようにかしこまったまま、五戒を誓うのだった……

こう始まる記事には「宮家のお嬢さん」を育て上げる鉄則（尼宮・あまみや信仰）の中で鷹司栄子さん決定までの経過や、善光寺が浄土宗大本願と天台宗大勧進で守られている話などが書かれている。

宮林 大本願にはどういう形でお入りになられましたか。

鷹司 大宮上人の附弟（ふてい・将来住職という含みのある弟子）としてです。そして入られてから修行された。

鷹司 はい、尼衆学校へ行きました。そこで二年、そのあと大谷大学大学院に二年。ですから四年間、京都に居りました。

宮林 知恩院の尼衆学校、現在の尼僧道場ですね。大谷大学では当時の先生という山口益先生、舟橋一哉先生、そして横超慧日先生ですか。



「浄土に春を求めて」と題した鷹司上人入山の記事（『朝日グラフ』昭和三十年四月十三日号）

鷹司 指導は横超先生でした。

宮林 御前は中国を研究されてますがそれは横超先生の薫陶くんとうによるものですか。

鷹司 はい、さようです。

宮林 大御前も尼衆学校でしたが、大御前の頃はいかがでした。

一條 わたくしたちの頃は一番生徒が多かった頃で、三年制から五年制に変わったのもその頃でしたですね。

宮林 最も充実していた頃ですね、御前の頃はいかがでした。

鷹司 あの頃は浄土宗も二つに分かれていた頃でした。わたくしは寮に居りましたが、尼衆学校が各種学校であったため、同校に在学しながら佛教大学の専門課程を通信教育で学びまして、二つ同時に卒業しました。それから大谷大学の大学院に行きましたがこれは修士の二年だけでございました。

宮林 それはそれは、ずいぶん食欲に勉強されましたね。

一條 鷹司さんは本当によく勉強されましたね。

鷹司 戦時中に勉強していませんでしたから……。

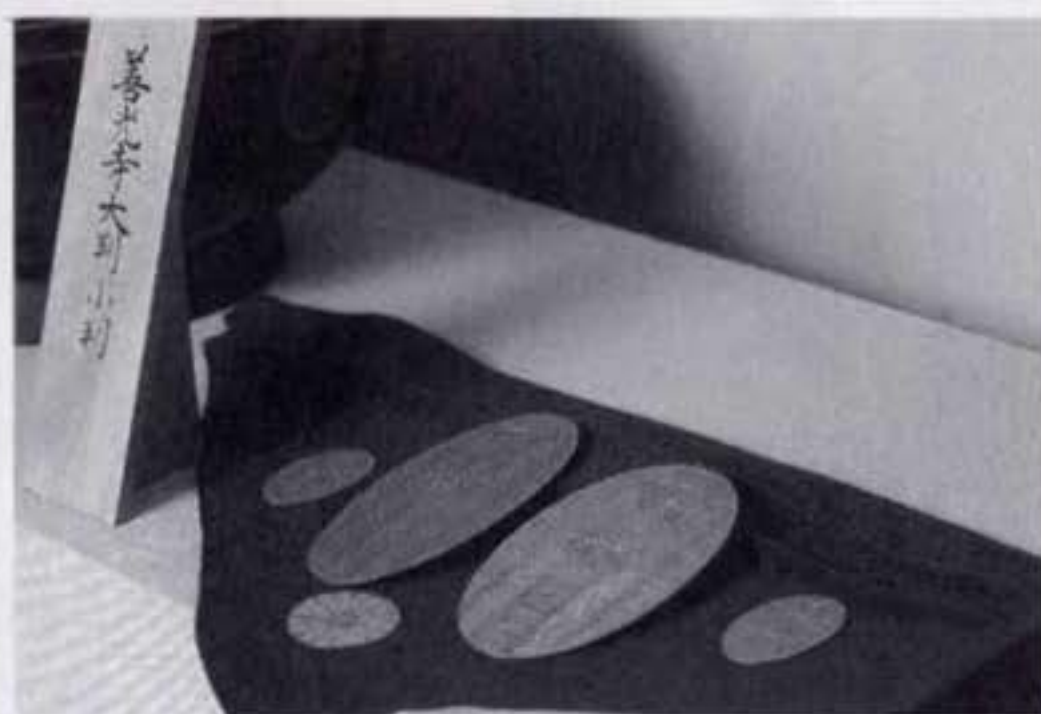
宮林 なるほど。確かにあの頃はまともな授業がなかった。先生も大正大学や佛教大学の先生は名前だけで給料が出ない。そこで高校の先生を兼ねていたりしていましたからね。

鷹司 それと運が良かったのはちようどその頃から佛教大学の通信教育が始まったばかりで、たぶんわたくしが通信教育第一回の卒業生だと思います。





大本願の宝物殿。宝物には長野県宝
や皇室関係などの宝物が並ぶ



宮林 いま、佛教大学の通信といったら通信教育の中でも注目されています。

鷹司 京都にいた四年間は懐かしいですね。

宮林 その京都からお帰りになられて副住職になられた。

鷹司 お代替わりは昭和三十六年でした。

一條 昭和三十六年三月にわたくしが大宮上人から法灯を受け継ぎましたから。

宮林 大御前が法主台下に、そして御前が副住職になられたわけですね。

一條 昭和三十六年は御開帳の年で、その御開帳は大宮上人が務められ、十月二十九日に晋山式を行いましたですね。

宮林 そうしますと今回の晋山式とは同じ日程ですね。ですがこういうのも何ですが、大御前と御前では時代背景がだいぶ違っていますね。

一條 さようですね。まあ、わたくしの場合は六歳で入山してからずっとここにおりますから。

宮林 ですが、それが良い意味で一條信仰、大御前に帰依する方をたくさん作られた理由でございましょう。その点では御前は京都や東京などに居られた経験があられ、大御前とは環境的には異なりますね。

一條 上人は大宮智栄上人（一條上人の前の大本願法主台下）と従兄弟だったお父様が上人が生まれる前から、大宮智栄上人と「将来女の子が生まれたら差し上げましょう」と約束をされていたことから六歳で入山。尼門跡に預けられ学

校に通い、尼衆学校に入られている。十五歳で本堂に出られてから、この四月に鷹司上人に譲られ退任されるまでの間、大本願法主台下としてその法灯を守られてきた。尼僧は清僧ということから、昔から深い信仰を集めている。

宮林 大御前はガールスカウトとの関わりが深いと聞いておりますが。

一條 はい。ですがわたくしだけでなく、鷹司さんも深うございます。

宮林 御前もですか。

鷹司 はい、わたくしは長野の第三十一団でございます。この第三十一団も、おかげさまで今年で二十周年を迎えます。

一條 わたくしが第十一団で昭和三十八年発団、人数に制限もありまして昭和五十三年に分団しましたが、全国でも尼僧が団委員長をやっているところはこの二つの団だけでございます。

宮林 そうですか。でも、こどもたちも御前さんと触れ合うだけで気持ち好啊らわれているでしょうね。

一條 そうですとよろしいのですが。でも、わたくしはこちら大本願から身をひかせていただくのと一緒に、団委員長をご辞退申し上げたのですが、なかなか許してくれませんで。

宮林 何をおっしゃいます。まだまだ大御前にはご活躍していただかないとお体のほうもお元気そのものでいらっしゃるし。



一條上人の晋山式の模様、昭和三十六年十月二十九日

一條 おかげさまで。

宮林 でもよろしうございますね。こうしてお二人でやられているのは。

一條 これも一條上人のおかげでございます。

宮林 御前は学生時代はもちろん、修行時代そして副住職になられてからも勉強というか研究熱心で、よく図書館に通われたとお聞きしています。また何より何冊もの大著を著していらっしゃる。その中でも『信州大本願・江戸青山・善光寺智観上人』は色々調べることも多く大変だったと思いますが。

鷹司 さようですね、この本を書くにあたっては、大本願の奥に残っていた江戸時代の日記が貴重な資料になり、書くことができたのでございます。

宮林 こちらの大本願と青山善光寺の住職はどういう形だったのですか。

鷹司 こちらの住職が青山の住職を兼ねておりました。昔は兼務といってもこちらと青山を行ったり来たりしておりました。およそ江戸中期の頃からですね。

宮林 青山の善光寺の住職を大本願の法主が兼務していたわけですね。

鷹司 青山で遷化されたご住職もおられますし、青山には初代からの住職のお墓がございます。ですが、拠点はやはりこちらでございます。

宮林 なるほど、そういう歴史の中で、大御前が百二十世、そして御前が百二十一世。初代からの住職ははっきりわかっているのですか。

鷹司 こちらも青山も火災などに遭っておりまして、資料がなくなっております、残念ながらすべてはわかりません。



宮林 近世でいうと第百十八世の誓圓上人の薫陶というのが、大きな影響力をもっているかと思いますが。

鷹司 誓圓上人は八十四歳という長命でいらっしゃいました。江戸時代の天保三年（一八三二）、そして信州善光寺に入山、天保八年（一八三七）に上人号宣下をうけ青山の善光寺にも入山されました。江戸末期の大地震で青山の善光寺が大きな被害を受け文久三年（一八六二）こちらに引き上げられたのです。そして明治維新での廃仏毀釈の中で信州善光寺を守られた話は有名でございますね。

宮林 本当に大変素晴らしいお方だったようですね。

鷹司 ええ、誓圓上人には地震の折のエピソードがありまして、これはあまり世の中に知られていないお話しかと存じますが……。

宮林 ほう、どんなお話ですか。

鷹司 青山の善光寺が地震で被害を受け、寺の者がみんな裏の竹やぶに逃げ込んだそうです。もちろん誓圓上人もです。そこで誓圓上人にもう少し安全な場所にお移りくださいとみんなでお勧めしたそうでございます。そうしましたら「いいえ、如来さまのいらっしゃるところにわたくしはおります」と、なんと三日三晩やぶの中でお過ごしになられたそうでございます。

宮林 ほう、やはりすごい方ですね。ところで善光寺大本願の特色というか伝統というか尼宮（あまみや）信仰という言葉がありますが、これはいつ頃からいわれているのですか。



大本願本堂とその前にたたずむ善光寺如来を背負った本田善光（ほんだ・よしみつ）の像。善光寺の歴史はこの如来からはじまった



鷹司 江戸時代からだと思います。

宮林 この尼宮信仰は一般的な目でみるとかなり特殊な形ではありますね。

鷹司 はい。大師信仰の高野山にしても比叡山にしても、女人は途中までしか登れませんでした。そうした中で尼僧が寺を守り、女人往生を説く善光寺に多くの方がひかれたわけでしょう。

宮林 女人信仰が尼公上人につながり、女人という生き仏信仰となったわけですね。誓圓上人が川中島の方でお湯を浴びたところ、多くの信者がそのお湯を大事に家に持って帰ったという話があるそうです。ですから上人からお数珠をいただいたり、十念をいただくことは大変な事だったようです。大変といえば、御開帳、それも出開帳も含め、これは善光寺の特色の一つですね。

鷹司 江戸時代の出開帳は青山の善光寺、そして本所の回向院が多かったようでございますね。そして御開帳の後は今度は「お城入り」と称して江戸城の大奥で開帳されたようです。ですからそれまでは大勧進の男僧が取り仕切っていたのが、大奥となると今度は大本願の尼僧が取り仕切ることになったようでございます。

宮林 大奥となると男僧の出番はない（笑い）。

鷹司 こうした大奥での開帳のほかには諸大名の参勤交代のように三年に一度は登城し、大奥の女性との交流もあったようです。ずいぶん立派な仏具類の寄進もあったようですが青山善光寺の火事でほとんどが焼失してしまったようです。



如来が出現して本田善光の肩に飛び乗ったという伝説の堀江。現在は大阪和光寺の阿弥陀池だ

ざいます。まことに残念なことです。

信州善光寺の近世、江戸時代以降前回（平成三年）までの御開帳は居開帳（信州善光寺での開帳）が三十六回、出開帳が十八回ある。出開帳には巡国開帳という回国開帳があり、近世は四回あり、壱岐、対馬、佐渡を除く日本のほとんど全土を回っている。基本的には徒歩旅行の厳しい行程だったようで、途中で死者がでたこともあったという。かつて善光寺聖（たじろ）が諸国を回り全国に広がった庶民信仰の総本山は、そのご本尊（一光三尊阿弥陀仏、別名善光寺如来）のこうした開帳からも絶えず全国の庶民の信仰の対象となっていたのである。

宮林 出開帳では大御前もずいぶんあちこち回られたでございましょう。

一條 さようですね、あちらこちらに行かせていただきました。北から南までずいぶん回りましたでございます。

宮林 今度の出開帳のご予定はいつになりますか。

一條 確か来年で、神戸でございましたね。

鷹司 はい、大震災に合わせまして一月の十六日からだったと存じます。

宮林 やはり、庶民信仰の大本山だけに、出開帳は大変重要な意味を持っていますので、どんどんおこなって欲しいと思いますね。そうそう、今年の御開帳は大成功と聞いておりますが……。

鷹司 おかげさまで、五百十五万人の方がお参りにお見えになりました。

宮林 御開帳の様子も昔と変わられましたか。

一條 さようですね。今は観光業者が入りまして変わりましたでございます。

以前はお参りの方がご自分たちのご都合だけで時間を指定されていましたが、時によつては朝ごはんが食べられず、昼ごはんも食べられず、夜のごはんだけしか食べられない、なんということもございました。最近はどういうことはなくなりましたですね。

鷹司 それとわりあい法要を申し込まれる方が少なくなりましたね。法要なしで参拝をというスピードの時代でございましたか。

宮林 まさに時代の流れですね。さて、いよいよ晋山式が目の前となりましたが、どのような引き継ぎをなされたいとお考えですか。

鷹司 さようですね、川の流れのように、と願っております。

宮林 なるほど、自然体ということですね。それにしても近世から今日まで、明治から大正、昭和、平成という激動の時代をしっかりと守られてこられたのは、本当に大御前や御前のお力ですね。そしてまた御前の次には大宮智真副住職がおられる。善光寺大本願の法灯は確実に継がれてまいりますね。

一條 ありがとうございます。

鷹司 おそれいます。

宮林 本日は長い時間、本当にありがとうございました。



ご挨拶

大本山善光寺大本願第二百十一世 鷹司誓玉



早春の信濃路を両親・妹に伴われて、旧国鉄時代の汽車で下ってまいりましたのは、昭和三十年のことです。ございました。姥捨駅を出はずれて眼下に広がる善光寺平を遠望したときには、一茶ではございませうが「これがまあついのすみかか……」の感慨で胸が一杯になりました。しかも悠々たる自然に恵まれ、如来様の慈光かがやくごとき環境はとても安らかで懐かしく、はからずも入山記念の一首がうかびました。

みすずかる 信濃平はゆたけかり 千曲の川に よどみなければ

三月二十六日出家得度、大宮智栄上人の附弟（ふでい「附法の弟子」の略称。将来の住職後継者という含みのある立場）にしていたいただきました。爾来四十二年間長くもあり、邯鄲の夢のごとく一睡の間であつたようにもお

もわれます。一條上人は九十才の現在まことにお元気で法務になんらご支障なく、温かく大きなお人柄につつまれ、在原業平の晩年の歌「いつかゆく 道とはかねて聞きしかど きのふけふとは おもはざりしを」のように昨日今日というさし迫った覚悟もなく、私はまだ当分の間は副住職の現状維持でいさせていただくつもりで、平常心でおりました。

ところが上人の御辞意固くお代替り仰せ付けられ、本年になって俄かに具体化してまいりました。行学ともに未熟にて尼公上人寺院の伝統と格式をたもち得るや否や心許ない限りではございますが、本年四月十六日に総本山知恩院で浄土宗門主猊下より、浄土宗大本山大本願法主の辞令を拝受させていただきました。また時を同じくいたしました御開張では、庭儀式導師を努めさせていただきました。辞令拝受から御開張とそれこそ息つく間もなく過ぎ去ったというのが、偽らざる心境でございます。

そしてこの度の晋山式、昭和三十六年の十月二十九日に一條上人が晋山されましたが、同じ月のしかも日にちも二十八日ということでございます。なにやら一條上人がそのお人柄で応援をさせていただいているようで、安心を得ながら臨めそうに思っております。

いよいよ晋山も終われば実、体とも法灯をお守りすることになるわけでございます。どうぞこの重責を果たせますようよろしくご指導いただけますよう伏してお願い申し上げます。また大本願の将来につきましても倍旧のご協力とご指南のほどを賜りますよう重ねてお願い申し上げます次第でございます。

平成九年十月

法然上人
と私

松本章男

このあいだ、知恩院の御影堂へお参りしたときのことです。法然上人の寿像を拝跪、外陣に坐していると、上人の遺文の一つが堂内に掲示してあって、目にとまりました。

弥陀如来の本願の名号は、木樵り・草刈り・菜摘み・水汲むたぐいごとき者の、内外ともに欠けて一文不通なるが、称うれば必ず生まれなんと信じて、真実に欣樂して、つねに念仏申すを最上の機とす。もし智慧をもて生死を離るべくは、源空なんぞ聖道門を捨ててこの浄土門におもむくべき。聖道門の修行は智慧をきわめて生死を離れ、

浄土門の修行は愚痴にかえりて極樂に生まれると知るべし

(阿弥陀如来が一切衆生を救おうと成就なさった本願にもとづく「南無阿弥陀仏」の名号は、木樵り・草刈り・菜摘み・水汲みなどといった、神も仏も知らず文字一つ読めないような人たちが、これを称えれば必ず浄土に往生するだろうと信じて、心の底から悦び勇み、つねに念仏するのを、最上の機縁とするのです。もし智慧をみがいて生死の迷いを離れることができるならば、この法然、どうして聖道門を捨てて浄土に帰依したてでしょうか。悟りのみちの修行は智慧をつくして生死の迷いを離れます。浄土門でつくすのは、自分は愚かきわまる人間だと自覺して浄土に摂取していただく、その鍛錬なのだということを弁えなさい)

この遺文はもと、高弟の信空上人にお示しになったおことばとみなしてよく、識者ぶってはいけない、思い上がった人間にならないように、お諭しになっていられます。ああ、信空さんを戒められた法然上人はいま、この私も戒めてくださっている。御影堂に坐

したまま、おことばを反芻したのでした。

私は大学で西洋学を専攻した人間です。西洋学は懷疑から智がおこるという觀念に立脚しますから、中年まで私は「南無阿弥陀仏」に懷疑と抵抗があつたのです。素直に「南無阿弥陀仏」と言えるようになったのは、母の死が機縁でした。

私の母は明治三十二年（一八九九）の生まれで、小学校卒業まで三年間を宇治の平等院で暮らしています。平等院には二つ境内塔頭があつて、母の父がその一つ最勝院の住持をしたからです。

国宝のある丈六の弥陀がおわします鳳凰堂の管理には、塔頭二つが月交代で当たっていました。母は小学校から帰ると鳳凰堂の鍵番をしたといひます。当時の鳳凰堂拝観者はごく少なく、しかも外国人がほとんどでした。母は重い鍵をぶらさげて、その拝観者を鳳凰堂に案内しました。錆のきいている大きな錠前に差した鍵を回すのに、小さい手がいつも痺れたそうです。たびたび拝観に現われ、親切に手をさすってくれて、代わって錠と重い扉をあけてくれた外国人に、『極東遊記』『日本通信』などを書いたポルトガル人文学者モラエスがあつたようです。

時移り、昭和四十五年九月、胃癌を患つた母は京大病院に入院することになりました。ベッドが空くのを待つて自宅待機をしていた一日、どこへともなく出かけた母が帰つて来ません。家内が心配しました。母は鳳凰堂の弥陀にお別れに行つていたのです。

母の癌は扁平上皮癌だったから悪質でした。おまけに水腎症が発見され、麻酔で尿毒症

を併発する危険から手術ができません。抗癌剤と放射線治療に頼るしかなかった日々、ベッドに目を閉じる母の唇が動きます。耳を近づけて私が聞いたのはいつも、幽かな「南無阿弥陀仏」でした。

翌年の春、母の命終について少し書かせてもらいます。

「お堂の錠が楽にあくようになった」

昏々と眠りつづける母が夢うつつに洩らした最期のことばなのですが、夢のなかで幼少にかえっている母はいま、鳳凰堂の弥陀を仰いでいるのだと、私は確信したものです。

それから数刻後、母の命終の瞬間です。母の眼・口・鼻・耳からエーテルのような気体がほとばしり、それが金色と瑠璃色の糸となって、螺旋状にからまりながら天へ昇っていったのです。

母の死が迫る日々、私は親孝行をしていなかったため、悔恨の涙に暮れていました。その結果、我見我執が少しずつ剝落しはじめていたのでしょうか。悔恨が私の心を清めてくれたので、母の命終には心眼で直面することになり、科学的知識では説明できない事象を知覚することになったのかもしれない。私はこのとき、同時に、阿弥陀如来の浄土と現世にとどまる私とが、母を介して流通しつづけるという予感をもったのです。口幅ったいことを言って恥ずかしいのですが、それが私の、法然上人の教えと「南無阿弥陀仏」をいただくことになった回心でした。

浄土經典に親しみ、『選択本願念仏集』の思想をかみしめ、遺文・消息などを読むうち、

上人を鑽仰する思いがいよいよ強くなっていきました。年月がそこに経過して、いま気づいてみれば、『法然の生涯』を私は雑誌に連載で書かせてもらうまでになっていたというわけですね。

法然上人は比叡山で止観業を専攻され「法華三昧」を修習されたのですが、龍山中に三昧を発得なさったと私は信じています。上人は仏をごらんになったのです。

鎌倉時代ともなると人間の機根が低落して、修行者たちが仏を見ていないのを見たごく偽り、僧侶の階位をのぼっていききました。親鸞聖人はその虚妄に目をつぶり、乱想に耐えながら苦行をつづけ、憔悴の果てにわが身が蛇と化し蠍きそりと化す幻覚にさいなまれていられます。

法然上人は仏を見て菩薩となられた。しかも、その苦行と見仏体験を黙して語っていないところが謙虚で偉大です。親鸞聖人は仏を見なかったから菩薩となられた。しかも、見仏不能だった己れを告白していられるところが正直で偉大です。

法然上人の生涯の営為で私がもっとも感動をうけるのは、上人が別時念仏と十三観法を一つのものとして「念仏三昧」を果遂なさっているところです。

上人は善導大師に導かれていられます。大師は日に六万遍の念仏を称えて浄土と仏の身相をごらんになったと伝わります。このように数を定めて口称する「南無阿弥陀仏」が別時念仏です。

『観無量寿経』には浄土を観る十二段階の方法が説いてありますが、釈尊はその観想法を

正法の時代の人びとにのみ促し、機根を失っているであろう末世を生きる人間には促して
いられないのです。法然上人はところが、この十三観法をも別時念仏とおして実践なさ
って、經典の真実をわたしたちのために実証してくださっているのです。阿弥陀仏の身相
と光明を確認してくださっているのです。

私は「南無阿弥陀仏」を精一杯早口に称えて、その数は五分間で二百遍です。一万遍称
えるには四時間を要することになるのだから、日に六万遍とは、仮睡の時間もないと思え
る途方もない数です。法然上人は五十日間にもわたって別時念仏と観法をつづけられ、日
に七万遍の「南無阿弥陀仏」を称えられたことがあります。自己のためではなく、他を利
するため、後世のわたしたちに浄土の真教を伝えんがために、こういう「念仏三昧」を果
遂してくださっているのですから、襟を正さないではいられません。

仏如来・菩薩のすべてが、わたしたちを現世の迷いから解放しようと誓いを立ててくだ
さっています。これが人間の智慧のおよばぬところで、人間の計らいを超えています。だ
から、その由々しさを知るところに、わたしたちは仏の計らいで助かるのだという希望が
きざしてきます。逆説的にいえば、法然上人は浄土經典の真実をみずからの行為をとおし
てお確かめになったからこそ、人智を超えて仏菩薩の救済を信じる、徹底的な覚醒に到達
されたのです。

私は浄土で母と再会するのが望みです。

この現世で仏果を得ようとする。わたしたちの望みが現世に限るものであっては、死の

まぎわに虚しい終りを経験するしかないのではないでしようか。現世では仏果を期待しない。往生を期すのみ。これに徹底したときにこそ、死を迎える瞬間が愉しく待たれてくるように思えます。

このあいだは、御影堂から勢至堂へもお参りをしました。法然上人が入滅されるまでの日々をおすごしになった庵室が、勢至堂のところにあつたのです。

生けらば念仏の功つもり、死なば浄土へまいりなん

知恩院勢至堂は、在りし日の庵室を写しているかとさえ思える、寝殿のような建物です。私はその広縁に憩わせてもらい、流れる雲を仰ぎながら、法然上人のおことばの一つを心のなかに呟いたのです。

(随筆家)

灯台

撮影●岡 克己

闇を照らす光

闇の夜

漆黒の荒涼たる海に
投げ出され揉まれつづける一隻がある

波の音、船体の軋み
すなわち長い航海の疲労と不安
が頂点に達するとき

遠く、微かに
一条の光が見える

驚愕

わき上がる希望

生かされていることへの歓喜
光は次第に太く強く眩い力となって

船を包み込み
確かな航路へと導く

灯台

長い歳月を越えて
聳え立つ塔

11月

きた み か む い み さ き

北見神威岬灯台(北海道)

1962(昭和37)年12月8日初点灯。夕方撮影。白地に黒横帯2本塗りの灯台です。塔形・コンクリート造り。光度・80万カンデラ。光達距離・19海里。高さ18m。灯高49m。単閃白光・毎15秒に1閃光



岡克己プロフィール■1948年岡山県倉敷生まれ。風土写真家、中村昭夫氏に師事。「Aqua21」に連載された「水のある風景」が高い評価を得る。灯台はライフ・ワーク。全国120カ所、2000枚に及ぶこれらの作品はCD-ROM『日本の灯台 第一集』(発売/ジェイ・ブレジアント)として好評発売中!!

連載小説

法然上人をめぐる人々

【第十回】

室ノ津の遊女

石丸晶子



十六

あたりには小島が点在し、波静かな入り江になつてゐる播磨国室ノ津。ここは今でこそ小さな漁港になつてしまつたが、当時は瀬戸内海を航行する大小の船が寄港する港として知られ、さらに淀川川口の神崎や江口と並ぶ遊女町としても著名であつた。

松林につづく浦沿いには、長者とよばれる女性が統轄する遊女宿が軒をつらねている。そしてそこから離れた町はずれに、漁師たちの小さな苦屋が肩を寄せ合つていた。

町の中心をしめる遊女宿のそこここには、朱塗りの祠や大小の鳥居が目に入るのも、一種妖しいなまめかしさを、町全体に漂わせている――。

三月十九日の朝、その室ノ津第一を誇る遊女宿の裏口に、乙吉たち高砂の漁師が駆け込んで来た。

「梅菊に一寸話してえことがある。呼んでもらいてえ」という乙吉のことばをうけて、一旦奥に入つた下働きの女のあとから、
「どうしたのさ。こんな早いうちから、うちの梅菊に何の用事があるのかね」と言つて姿を現わしたのは、宿の女主人の長者である。

「へえ、これは長者のおっかさま、いい陽気になつて来やしたんで」乙吉はそういうと頭を下げた。

「おやまあ、亀に五助も一緒じゃないか。台所に魚でも持つて来たのかと思えば、朝っぱらから、三人そろつて梅菊に用事とは、一体何があつたのかい」

「へえ、それがおっかさま、その――」

上り框に立ちはだかるようにして自分たちを見下ろしている長者の態度に、今までの高ぶつた気持に水をかけられた乙吉は、口ごもつた。

「早くお言いよ。お前たち三人して梅菊と遊

びてえつつのかい」

長者の頬に嘲笑が浮かんだ。「ふざけるのはおよし。お前たちは高砂の漁師じゃないか。うちには漁師の相手をする遊女なんど置いてねえわ」

「減相もねえ。おつかさま、わしら、梅菊と遊ぼうちいうて来たわけではねえ」乙吉はあわてて、長者のことばを打ち消した。

「乙吉、お前、さつきから梅菊、梅菊と、そう気安く呼んでもらいたくないもんだ。で、用事ってのは何さ」

「堪忍してください。わしら作法を知らねえもんで」乙吉はふたたび頭を下げて長者に詫びると、

「それがおつかさま、法然さまのこつて。法然さまがゆんべ、わしらの高砂に來やしたんで」

実は乙吉たち三人は、一刻も早く法然のこゝとを梅菊に知らせようと、十九日の夜が白むや、小舟を漕いで室ノ津に駆けつけたのであ

る。

十七

「おやまあ、まあ」長者は顔を歪めた。

「それをわざわざ、うちの梅菊に知らせようって、高砂からやって来たのかい。ご苦労なこつた」

長者はことばを切ると、乙吉たちをしばし見下ろしてから、

「そんなこたア、お前たちから教えてもらわねえでも、先刻承知さ。それを知らねえ遊女宿の長者なんぞ、この室ノ津に一人もいねえわな」

「へえ。申しわけござんせん。ただ、おつかさま」

乙吉は長者を見上げながら、

「この前、わしら京に商いに参りやした折、生口島いくちじまのお代官と梅菊あねさんに道で会いやしたんで。そのとき、あねさんに約束したこ

つを知らせに参りやした」

「お前なんぞが何を約束したのさ」

「へえ。法然さまが室ノ津にお立ち寄りになるかどうかを知らせると——」

「ふざけるんじゃないよ」みなまで聞かないうちに、ばしつと長者は言った。

「お前たち、この室ノ津を何だち思うとるんだ。お前たちに知らせてもらわいでも、この室ノ津には、翌日にはもう、京のことが耳に入っておるわな。法然さまとやらのことも、何もかも疾うに知っておるわ」

「……」

「神崎の泊^{とまり}じや、その法然さまの教えをきいた遊女が、五人までも淀川に身投げして死んだちいうではないか。冗談じゃないよ。わっちらの商売を何だち思うてるんじゃない」

漁師たちをねめつけるようにしながら、上り框に立ちはだかった長者は喚いた。

「お陰で、五人の遊女に死なれた宿の長者は大困りさ」

「……」

「そう安々と遊女たちにお浄土に行ってしまったら困らアね。大切な商売道具じゃないか」

「——へえ。そらアもう」

「お前らの海の魚と、わっちらの遊女と、どこが違うのさ」

「へえ」

「わっちらは、人助けをしてるつもりなんだ。お前たちのように、魚を殺す漁師とはわけが違^{ちが}う。男衆たちは遊ばねばやっていかねえ。遊女たちは遊んでおまんまに食いはぐれねえでいるんだ」

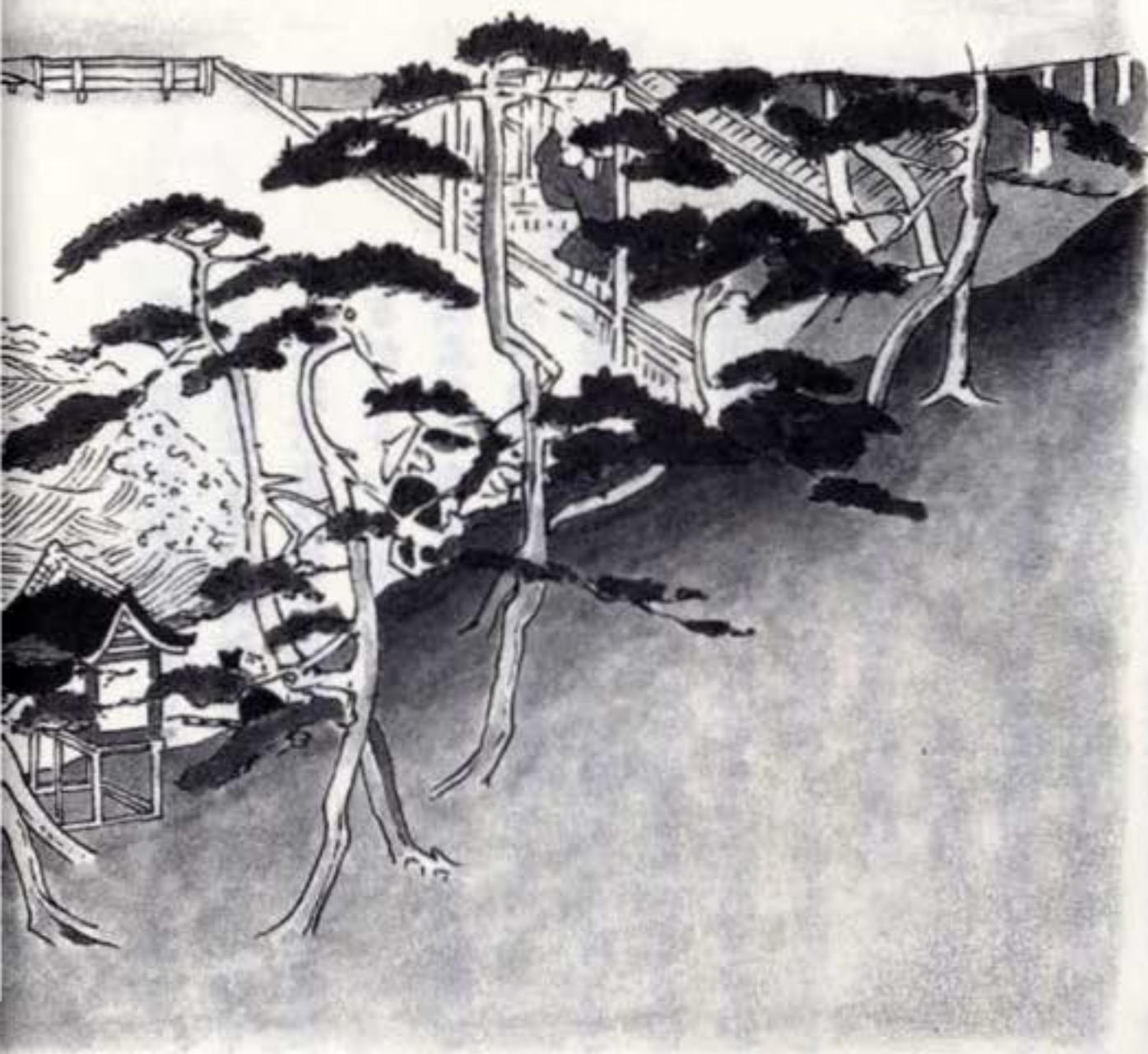
「おつかさま、何もわしらはあねさんたちを浄土に行かせようとしたんではねえ」

「帰つとくれ」長者は怒鳴った。

「梅菊に話があるたア、余計なことだ」

「……」

「お上人たちが、室ノ津の村長の家に一刻ばかりお立ち寄りなさることだア、わっちらゆん



べのうちに承知さ。じゃがな、室ノ津の長者衆は、みな、村長の家を遊女が訪ねることを厳禁しておるわな。遊女をお上人に会わせねえよう、村長に申し入れてな」

十八

長者に追い返された乙吉たち三人が、それでも、室ノ津でしばし休憩する法然の一行を浜で迎えようと、松林のかげで船影が現れるのを待っている頃、当の遊女宿では、長者が梅菊を呼んで叱りつけていた。

「室ノ津の遊女は、同じ遊女でも高砂の魚くせえ遊女とは格がちがう」

長者はふたたびくり返した。「京で乙吉に会ったというが、室ノ津の遊女が漁師ふぜいと道で出会ったというても、そう口なんどきくもんではありません。まして約束するなんど、もつての外でありやせんか」

「おつかさま、約束したちいうても、わっち



はただ、法然さまのお船がここにお立ち寄りなされるような時には、知らせてくれちいうたばかりでござります」

「それ、それが悪かことがお前にはわかりやせんかえ。そのお上人は流罪になったお方ではありやせんか。流罪になったお方を乗せた船がこの室ノ津に寄港さっしやることが、梅菊、お前に何の関わりがあるのかえ」

「おつかさま」

梅菊はそう言うのと、二つ三つ膝であとずさりしてから、両手をついた。

「わっちはおつかさまを、真実わっちのおつかさまと思うておりまする」

「——急にあらたまっちまって、どうしたつうのかい。いやだね。それがどうしたっていうのさ」両手をついている梅菊から目を離さずに、長者は言った。

「人買いに売られたわっちを引きとってくださったおつかさまに、そむく心はいささかもありません」

「……」

「なれど、わっちは法然上人さまに心を寄せ
ております。先頃、生口島いくちじまのお代官のお伴
をして京に参りましたとき、お代官につれら
れて小松谷のお上人のもとに参りました。丁
度、流罪のお裁きが下ったときでござりまし
たが、そのときのお上人のみ姿、み声、忘れ
られませぬ。今一度、わっちはお上人のみ姿
を拝みとうござります」

長者の顔に困惑のいろが浮かんでいる。

二人の間に一種気まずい空気が漂い、沈黙
のときが流れた。

十九

やがて長者は喉の奥がひからびたような乾
いた声で訪ねた。

「——でお前、み姿を拝んで、どうしように
てのかい」

「どうもいたしませぬ。ただみ顔を仰ぎ、で
きれば、み教えを拝受したい願いにござりま

す」

「お前」

やっと自分を取り戻した声で長者は言った。
「そのみ教えとやらを聞いて、浄土に往こう
というのかい」

「はい。浄土に参りとうござります」

「ばかをお言いでない」びしっと鋭い声で長
者は言った。

「み教えを聞いて、お前も海に身を投げよう
つてのかい。冗談じゃないよ」

「まさか。おつかさま、まさか」

「しかしな、梅菊、神崎では遊女の五人まで
も、お上人の話聞いたあと、淀川に入って
死んだちいうではないか。してみると、お上
人の教えとやらは、遊女に死ねちいうもので
あるらしいの」

「おつかさま、お上人さまは決してそのよう
なことを仰せにはなりません。神崎の遊女が
なして淀川に入ったかは存じませぬが、お上
人さまは決して、遊女に死ねちいうお方では

ありませぬ」

「なら、何とお言いなのかえ」

「遊女もお念仏によって往生できると、京の公卿衆や坊さまがたとかわらず、みだ仏の御本願に縫れば、遊女も極樂にいけると」

「そらまあ大そうなみ教えだねえ」

「わっちは海に身投げしたりはいたしませぬ。ただ、み教えを拝受して心の支えを頂きたいばかりにござります」

「当たり前じゃないか。お前たちに身投げされたら、この商売、やっていけるかね。人買いに売られてきたお前に、今様だ、琵琶だ、

鼓だ、和歌だと、一人前の遊女に仕込んでやったのはこのわっちだ。恩を仇で返すまねは決してするまいぞ」

「決していたしませぬ」

梅菊はふたたび両手をつくと、長者の顔を見あげて言った。

「おつかさま、おつかさまのところに、間もなく松菊あねさまが来られましょう。あねさまが直接おつかさまにお頼みされる由にござりますが、あねさまもお上人さまのみ顔を拝みたいと言うておられます」

梅菊は、室ノ津一の遊女と自他ともに許す

古き伝統技

三代にわたる信頼

浄土宗法衣専門

古島法衣店

有限会社

〒111東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)3842-11289

振替00180-2-45231

松菊の名前を言った。

「何、松菊は去年の秋に血を喀^はいてから、工合がよいではないか」

「なれば一層、お上人さまのみ教えを賜りた
いお心にござります」

「困ったもんだ」

長者は口の中で呟いた。松菊の頼みとあれば、抱え主の長者といえども、そう無下^{むげ}にははねつけられない。

が、やがて、松菊の願いをしりぞける口実を見つけた長者は、ほっとしたように、

「松菊はきのうも血を喀いて寝ていたではな
いかえ。お上人に会いたいちいうても、工合
が悪うてはどうしようもありやせん」

「あねさまは今日は気分がいいと言われて、
わっちがおつかさまに呼ばれたときは、床を
あげて着替えてありました」

「そんなこつ言うても、この室ノ津でお上人
に会うことは出来ん」

「なぜでござります」

「神崎の遊女に懲^こりてな。お上人は村長の家
でお休みになるちいうことだが、この室ノ津
では一切、お休みの家に遊女は近寄せねえ
ことになっていゐるんだ」

突然、何かひらめいたように梅菊の頬が明
るくなった。気がつくとき彼女は長者の手をと
り、眸^{ひとみ}を輝かせて言っていた。

「おつかさま、小端舟がござります。村長の
家に伺えぬとあらば、海辺で法然さまをお迎
えいたします。小端舟は客を迎える遊女の
道具。なれば小端舟でお迎えし、舟の上で
み教えを賜りまする」

(つづく)

朝日新聞社より、石丸晶子先生の

「蜻蛉日記―現代語訳」が発刊されました。

定価は本体3000円＋税。

副題に「ある女の人生史」とあるように
とても読みやすい内容で好評発売中です。

この言葉をきくと、必ずといってよいくらい「阿吽の呼吸をあらわす」という表現が口をついて出てきます。

阿吽の阿は「出る息」、吽は「入る息」、従って人の呼吸の意味に解されて、相撲の仕切りなどで、両者の呼吸を整えさせて合わせることをいうのだそうです。

しかし、本来は仏教語で、「阿」は、口を開いて発する音声で最初の字音、「吽」は口を閉じて発する音声で最後の字音

とされ、悉曇（インドの古語が中国に伝播されて創られた文字）の、初音と終音であるところから、すべてのものの始まりと終わりとを象徴することになっていきます。

インドでは昔から「ア」の音は、万物の根源を示す音とみなされ、あがめられていました。

このような字音についての宗教的観念は、仏教にもとり入れられ、「阿」がすべての言語の本源であるところから、一歩進めて、それがあらゆる存在の根

阿 吽

あうん

源であるとされ「吽」がそれが帰着する智徳を意味するものとされました。

また別の意味では、「阿」はさとりを求める心（菩提心）、「吽」はその結果としてのさとの完成された姿（解説）に当たるとされています。

また神社の参道の両側にひかえている狛犬や、仁王門に立つて仏法を守護している仁王さまは、口を開いているのが「阿形」をあらわし、閉じているのが「吽形」をあらわしています。

念 珠



■ 伝承の技と心

念珠の修理・仕立替承ります。

○ アクセサリーの修理・加工・リフォームも承ります。

◆ カタログをご請求下さい。
「念珠年報」をお届け致します。



平野屋

本店 東京都文京区湯島4-5-3

☎(03)3811-4450 〒113

四谷店 東京都新宿区四谷2-8

☎(03)3355-2250 〒160

御法語に聴く

病をいやす草木、鐵をとる磁石、不思議の用力なり。
又麝香はこうばしき用あり、犀の角は水をよせぬ力あり。これみな心なき草木、ちかいをおこさぬ獣なれども、もとより不思議の用力はかくのみこそ候え。まして仏法不思議の用力ましまさざらんや。
(『往生浄土用心』)

病気を治す草木にしても、鉄を引き寄せる磁石にしても、それぞれ不思議な力があります。また、麝香にはかぐわしい香りがあり、サイの角には水をはじく効力があります。それらは、心情など持ち合わせていない植物であり、誓いなどおこなない動物ではありますけれども、不思議な力がそのようにもともとそなわっているのです。まして仏法に不思議なお力がないことなどありえましょうか。

不思議は不思議のままに

現代人は理屈や理論を好む、と言われる。自分に当てはめてみても、少なくともその指摘は間違つてはいないと思う。

いや、それは現代人のみではなかろう。今も昔も洋の東西をも問わず、「こころ」を、「ことば」を与えられた人間はいつもそうであつたし、これからもそうであるに違いない。ひいてはそれが、自らの五感をもつて認識できるもののみが信じられるもの、確かなものとの錯覚を植えつけているともいえよう。

「あの人が好き……」

思い出してみたい。

だれかに魅かれ、恋ごころを抱いたあの頃を。

懐かしんでみたい。

その思いは、何の夾雑物をも含まずに一途にその相手へと向けられていたことを。

我が心をして恋ごころを芽生えさせたのは、あるいはその人の優しき、あるいは厳しき、あるいはその男らしき、女らしきだったかもしれない。

しかし、である。

今となってみれば理由を挙げつらうこともできようが、決して「彼（彼女）のこういうところがこうで、ああいうところがああで……」と並べたて、理論だてて、その結果として「好き」になったというのではあるまい。自分でもつかめ得ない「何か」がこの私に働きかけたとは言えないだろうか。

恋は何の前ぶれも、予告もなしに、突然やってくる。そこには、こざかしい理屈は一切ない。「好きだから好き」なのだ。

そう、およそ恋とは不思議なものなのである。

不思議なものは、ひとり恋ばかりではない。世を見渡せば、不思議なことだらけだ。

もつとも今の世、草木に病を癒す成分が含まれていることも、それが人体に対してどう作用し、その結果として病が癒されることも、医学という分野が理論的に説明してくれる。鉄も麝香もサイの角も同様だ。

しかし、その理論はともかく、癒してくれるのは事実だし、水をはじ

くのも事実。草木も鉄も麝香も角も、自ら理論を組み立てて、そのような力をそなえようとしてそなえたわけではないはずだ。不思議と言えば不思議である。

法然上人は言う。

「まして仏法に、不思議な力がないはずがない」。

經典は、仏の真理をなんとかして衆生にわかってもらいたい、信じてもらいたいと、さまざまな方便をまじえ、説き明かそうとしてくれる。それをもとに著された諸師の論書も、またしかりである。

はじめから結論のみを述べ、「いやあ、不思議なものなんです」では、確かに納得はしがたい。信じがたい。經典や論書が、時に煩瑣^{はんさ}に、時に難解に感じてしまうのは、実はほかでもなく、理屈や理論を好む我々人間の欲求に應えてそうされたまでのことだからではなかったかとさえ思える。仏や論師の「これでもか、これでもか」の声が聞こえてきそうだ。ふたたび、しかし、である。

それでも力が及ばないとしたなら……。

あとはもう、「不思議なことなのです」と言うしかあるまい。

それは「逃げ」でも何でも無い。我々凡夫のあさはかな智を、どれほどめぐらしたところで及びえないのが事実なのだから。

それが、「真理」なのだから。

『阿弥陀経』には、それを説く仏自らが「信じがたい法である」と表明されているではないか。

理論で構築されたものは、理論に崩されるのが宿命かもしれない。が、理論や理屈を差し挟む隙間のないこと、それらを超えているものは、決してその危険をはらんでいない。

「好きなものは好き、好きだから好き」、なのである。

「不思議なものは不思議」、なのである。

恋はしょせん人間のなすところ。それすら「不思議」なのだ。

「まして仏法不思議の用力ましまさざらんや」である。

仏の不思議なはたらきは不思議のままに、楽しみに、素直に頂戴したい。

若者の言葉遣いが随分荒くな
ってきている。

普通に話しても聞き苦しいの
に、頭に血が昇るとこれは酷い
ものになる。

「ババアッ！ こんな時間に電
車に乗るんじゃないえッ」

混んだ電車の中で大声で怒鳴
られた老婦人がいた。

「老人に対して何という言いぐ
さだ。いい加減にしろっ」

みな気色ばんで男に詰め寄ろ
うとした。そのとき——老婦人
は気弱い様子で何事か小さな声

で男に囁いた。

男はそれきり黙ってしまい次
の駅でこそそこそ逃げないように降
りてしまった。

「さっき、あの男に何をおっし
やったのですか。急に意気消沈
してしまったみたいですけど」

品のいい老婦人はニコニコし
て答えた。

「ないしょです」

けれど私がしつこく食い下が
ると少し真顔になって教えてく
れた。

「あんなふうには、見知らぬ若い

いい加減にしろ⑬

人間に物を言われたら、こう言
い返すことにしてるんです。耳
もとに小さな声で」

「何て」

私が耳を寄せると、

「あんな事故にあって一週間以
内に死ぬわよ」

思わずドキツとした。

おそるべし、老人の逆襲。

こんな謎めいた微笑を浮かべ
ながら品のいい老婦人に囁かれ
たら、その場は動揺を取り繕っ
ても、あとでジワジワ効いてく
るだろうな。

(蓮門代走)

吉野法衣店

各大本山御用達浄土宗袈裟法衣専門



〒160 東京都新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168
振替 東京21176372

利根川裕のホットアングル

秋の夜長の酒談義

利根川
裕

秋の夜長のお楽しみのために、というわけでもなかろうが、地方の知人から、日本酒二本が送られてきた。

銘柄といえ、たいへん名の通った酒である。名が通っているだけではなく、たしかにいい酒で、かねてからわたしの口にも合っている。だから、何よりの贈物とよろこんで楽しみだしたのだったが、どうも素直に楽しめきれないものが胸の中に遊曳ゆうえいしてしまった。

というのは、一外壘そとびんのラベルの貼ってある反対側の腹に、つぎのような文面が貼ってあったからである。

その文言を、その通りに掲げてみる。

お酒は、飲みすぎにご注意され、適量をお楽しみ下さい。

・妊娠中のお母さんは、生まれてくる赤ちゃんのために、飲酒をお避け下さい。

・未成年者の飲酒及び飲酒後の運転は禁じられています。

・小さなお子様の手の届かない場所に保管して下さい。

・開栓には十分注意され、容器の取扱いにご注意下さい。

・高温、直射日光を避け、冷暗所で保管され、特に開栓後はできるだけ早目にお飲み下さい。
・お燗する場合は必ずキャップを取って下さい。

いってること間違いはないが、こんな当たり前すぎることを、わざわざ貼りつけるとは、いったいどういう魂胆なのか。

この銘酒は、そうそうた易く手に入るものではない。また、その値段も決して安くはない。酒を愛し、酒のうまさの分かる人たちの酒である。

そういう酒徒たちを相手に、こんな幼稚な但し書きを添えるとは、なんとも失敬千萬ではないか。醸造元自身が自分たちの誇る銘酒を侮辱しているにも等しいではないか。せつ



Aguardiente

かくの酒ではあるが、わたしの気持ちはなかなか静まらなかった。

そこで、その後、気心の合った酒友たちに出会った。わたしはこれを話題に持ちだした。みんな、酒には一家言ある（と思いこんでいる）酒友たちだから、まずはわたしの鬱憤（ふん）を分かってくれたうえで、侃侃（かんかん）諤諤（ごご）。

酒に誘われての談論風発だから、話が勇み足ふうになったり、放言に傾きかけたりもしたが、こんにちの社会の断面に触れることにもなったであろう。

以下、順不同で、その諤諤（ごご）ぶりを、低級高級とりまぜて紹介してみる。

——われわれの社会は、いまやあきれるほどの過保護に包みこまれており、しかもそのことを奇異に感じる意識を失うほどボケてしまっているのではないか。だいたい、大のおとなの社会が、「小さなお子様」相手の保護感覚と一緒に取扱われるとは、なんともはや、未成熟な社会である。しかも、たるみき

った未成熟社会を断ぜざるをえないのではないのか——

——「妊娠中のお母さん」のくだり、思わずふきだしたが、しかしこれは、若い女性や若い奥さんたちに、程知らずの酒飲みのクセがついている人が多いという実態を物語っているのかもしれないぞ。酒乱、という言葉は、かつてはいわば男性名詞であつたが、いまや両性名詞どころか、女性名詞になったのではないか。「妊娠中のお母さん」という一項に、男女同権の成果がどこまで上がったかという指数を、見ることが出来るというものである。

——しかしねえ、製造販売元がこんな注意書をあえて添付せざるをえないという事情もあるね。ちかごろは、子どもが下水溝につまづいてケガしたといつて、区役所に損害補償を掛け合いにくる親がいる。だから、「お子様」がうっかり酒飲んで病院の手当を受けたとなったら、販売元に掛け合いにくる親だ

つていないわけではないし、産婦が健常でない子を産んで、その原因がアルコールにあったとしたら、その産婦は自分の飲酒癖を棚上げにして醸造販売元を告訴しかねないとなると、醸造販売元としても先手をうつて注意書を明記しておくという自衛策をとらざるをえないことになる――

――消費者のほうは、自己責任などどこ吹く風で、権利とか人権とかいう自己主張につつまるばかりで、一方、製造販売者のほうは対抗策としてますます手厚い注意書を書き連ねざるをえないとは、権利と保護とが競い合い、馴れ合って、いよいよますます寄つてたかつて未成熟な社会作りにいそしんでいるつてわけか――

――「開栓には十分注意され」つてのも、笑っちゃうね。われら酒飲みが幼稚園の子どもじゃあるまいし――

――が、たまに栓で手を切ると、これまた自分の無知不器用は忘れて、製造元へ怒鳴り

こむ手合いがいるんだよ。少なくともそういう手合いがいるかもしれんと、製造元は予想するんだろうね――

――こんなふうに語ってくると、われわれは、箸にも棒にもかからないような、とんでもない衆愚社会に住んでいることになりそうで、気が滅入ってしまうよ――

――ところがだ、衆愚社会かどうかはともかく、ちかごろの酒は、じつにうまくなったね。だんだん、うまい酒が生まれてくる――

――その技術革新の飛躍的向上のなかで、ますます衆愚性が増してくるというこのギャップはなんなのだろう。問題はそこだよ。このつぎの酒の会では、それを語ってみようか――

(作家)

ある家に、きれいに着飾った一人の女性がやってきた。家人が尋ねる。「どなたですか」。「私は吉祥天といいますが、私が行くところでは必ず様々な財宝に恵まれるのです」と麗しい声。家人は喜んでこの女性を中に迎え入れた。

するとまた一人の女性。この人は先ほどの女性とは反対に汚い身なりをしている。尋ねてみると「私は黒闇天というもので、私の赴くところには必ず災いが起こるのです」と言う。家人が慌てて追い払おうとすると、その女性のいわく、「先ほどの女性性は私の姉です。私と姉はいつも一緒に歩いているのです。私をいとい嫌うのならば、姉をもいとい嫌うべきです——」。

若和尚の

三十其 しいはいいとツヨチ

これは「涅槃經」に説かれるたとえ話。なにやらおもしろそうではありますが、はてさて、あなたが家の人なら……

後から来た妹をも迎え入れるか、妹だけを追い返すか、それとも二人とも追い払ってしまうか……？

財宝を得られるなんて、降つて湧いたようなことは、誰も拒まないのは当然。逆に、災いが起こると知っては、妹を迎えるわけにはいきません。

人間の心理、そして弱さを鋭く突いたたとえですが、これは人生、好むと好まざるとにかかわらず、禍福、苦楽が表裏一体で訪れることを示唆しています。經典は続けます。「その家人は二人の女性とも追い返してし

まった——」。

家人の意思の強さにはまったく敬服の至りです。人生の禍福、そのいずれをも厭い捨ててしまったのですから。

捨て去ることで解き放たれるなら、そうしてもみたい。しかし、捨てられずに、泣き、笑い、悩み、もがき、その繰り返しに日々を歩んでいるこの身。

「捨てるのは確かに理想。しかしわしらには、どうしてどうして……。だから、阿弥陀仏にすがるしかないのだよ」

禍福、苦楽を離れては生きていけない無力な私たちに、その術（すべ）を示された法然上人の声は、麗しい吉祥天の声よりも、はるかにやさしいに違いありません。

(正)

うまい野菜と

料理の話⑩



あるいは

セ
ッ
ッ
エ
ー
バ
タ
ケ

自家菜園

の

ひそかな

愉しみ

我田大

昨日（九月二十一日）ことし最後のタネ蒔きをした。ホーレン草です。

豪雪地のここらでは雪で最後が区切られていたので十一月下旬収穫をメドにタネ蒔きは終わる。葱類やキャベツなど幼苗で越冬するもの、春の蔓を食べる青菜類、あとアスパラやハーブ類などの多年草類意外はすべて畠からとりいれるか、片付けるかしなくてはならない。その季節が近づいてきたのを感じながらの最後のタネまきでした。

えー、ニホンの人々にとってホーレン草なんてミセヤに行けば今や一年中売っている普通の野菜でしょう。私も野菜を買って、食ったり使ったりしている時はそう思っていた。しかし野菜造りを始めた頃、テキトーな種を買い、テキトーな時期に蒔いて育ててみると年中うまくできるものではなかった。まず夏は露地、放任、無農薬ではムリだった。で、ムラの老人を見習い、秋と春に蒔くことにした。品種は何かいいかわからないから、ミセヤの店頭のラックに並んでいるタネの中から

ヤマカンで選んでいた。野菜を買う人はミセヤに行つて「ホーレン草」を買えばいいから品種の心配などしなくていい。けどタネ蒔く人はアマタある品種の中のどれかを選択しなければならぬのだつた。ラックはまだ選択の幅が狭いけれど、種苗商のカタログを見ればホントにやたらアマタある。選択基準がない人間には何がどうか訳わからなかつた。

そして蒔いてもホーレン草はなかなかうまくできなかった。秋蒔きの時期は当地ではカブナ（野沢菜）などと一緒に蒔くのだが、カブナはなんとかモノになつても、ホーレン草はだめだつた。どうしてか理由の見当もつかなくつた。蒔くのがバクチみたいな感じだつた。いろいろ条件を変えて理科の実験のように作つてみればよかつたのかもしれないが、その手間も暇もなかつた。なんせ食うために作っているのだし。人に聞いたり、本など見ても、いざ作る時にはそんなの忘れたり、で、また失敗する。タネ蒔いたのが、あっちこっち歯が欠けたように芽が出なかつたり、のびの

び育たず黄色ばい色した葉っぱで縮こまっている景色を見るのはつらい。来年こそはと思ったりもした。

まあそれから年月もたち、ぼつぼついろいろ工夫をやって最近はかなり上手に作れるようになった。試行錯誤の過程がホントは大事なのでしょうが、そのまま書くとしたらしますから、その結果をまとめてみます。素人が自分の畠という限定されたところで手探りでやったことで、見えていないことも多いと思うのですが。

①なんといっても土作り。堆肥を入れる。

堆肥が面倒なら有機物でマルチし、それを翌年うないこむ。草、藁、モミガラ、キノコ栽培後のオガクズなど。成果は五年十年経たないとでてこない。早急な結論求めたがる（今の）人間の考え方は土のリズムとあわないようだ。土がよくなればなんでもよくできるよになる。

あと、ホーレン草は酸性土が嫌いというので石灰はあまりやらなくてもいいような気も

するが、短期間で収穫になる葉物は肥料は元肥でドーンとやったほうがいい。（私は化学肥料はあまり使いません）

②品種選び。ホーレン草には西洋種と東洋種（タネの形が違う。それぞれ「丸」「針」とその交配種がある。東洋種は春時できない（長日で抽苔）。肉厚の西洋種は食べた時に土臭さがどうしても残る。したがってバターソーティーならまだいいが、ヒタシには向かないと私は思う。売っている大半は西洋種とその血の入った交配種で、これは一年中ホーレン草」という名前を食いたい使いたいという、大衆や業界の無知かわがママに迎合した結果だと思う。私はうまい秋蒔きの東洋種（系）のみ作っている。品種は次郎丸と新日本。春は以前、中ではましというミンスターランドを作っていました。味が秋のほどではないのでやめました。味といえば、売っている長さ（これは市場的に決まっているらしい）より長い、いかにもナツパという大きさのホーレン草には成熟したうまさがあります。

恋消え

はーん 草の

花 6 月



③雨よけ。西アジアの乾燥地が原産といわれるホーレン草は発芽時以外は雨が嫌いなようだ。長雨時には葉がヨドレ（腐）る。ビニールで雨よけをすると好調に生育する。雨によるドロはねが葉につかないのもいい。乾燥が嫌いな雑草も生えないので好都合。

④踏んづけ蒔き。野菜は肥料を吸収して大きくなるのだから、ある範囲内で与える肥料の量と収穫量は正比例するとか、畠の雑草は野菜にやった肥料を吸い取ってしまうから取らなくてはならないとかは、検証されていないセツツエー畠づくりの常識です。

肥料をまいた畠をうない起こし、大きい土のかたまりはこなし、柔らかくふかふかせたところにタネを蒔く。そうすれば根が伸びやすいからよく成長する、というのもその常識の仲間です。

だからどっかのジサ（蔑称にあらず）がそのせつかくの高いウネの上をずかずか歩いて堅くしたり高さを低くして大根のタネを蒔いているのを最初に見た時はたまげました。私

は高いウネに二五cm程の間隔に浅い穴を掘り、蒔いて、それに周りから細かい土を手でかけるという手間のかかるやり方をしていた。なのに歩いて、その足あとにタネを落としていくだけ。覆土もチャチャツと簡単そう。あんなんでいいのか、と。

その後を注意してみていると何の不都合もないようだ。で、いいことをマネするのに、何の遠慮があるものか。翌年からマネした。盛り上げたウブというか新調というか処女的なウネの上を歩くのは、なんかいけないことをしているような悪いような、でもなかなかいい気持ちだった。

タネ蒔いてから見ていると、踏んづけたところは、そうしないとより乾燥しないのに気づいた。これはとくに軽い土のところでもうだった。踏んづけるという簡単なことで水分保持力がずいぶん違うようだ。ということとは発芽や初期成育も、ということだ。踏んづけたぐらいの堅さの土は根にとって何の苦にもならないか、かえっていいようだ。

ズにのって栽培法に「種を蒔いてから鎮圧したほうがよい」とある野菜（ホーレン草もそう）は勝手に踏み替えて覆土してから、もう一度踏んづけています。ふつうは平鍬や板でやるのですが。これによってホーレン草のタネ蒔き時の常識、蒔く前のタネの水浸も省略できました。

⑤蒔く時、あまりたくさん「タネを落とすすぎない」（こう言う）こと。

後先を考えずに最初の頃はいっぱいタネを落として過ぎて後でウルノグ（間引く）のにオージョーした。腰がヤメル（いたくなる）。

ヤンなる。かといって最初から収穫時の間隔（最終株間）で一粒ずつ蒔けばいいというものではない。タネはあるていどは、こま蒔く。一〇〇％発芽しないし、混んでいたほうが競って初期成育がいい。そこから成長のよすぎるのや悪いのや奇形をウルノグ。虫害などの保険の意味もある。成長にしたがって何回かウルノイで（そのウルノギはもちろん食べる）売っているようなホーレン草となる

間隔にするのです。

初心者の時このウルノギがどうしても大胆にできなかった。芽が出たのはすべて立派な大人になる未来を約束されているように思ってしまうからか。抜くのが遠慮シーシーになってしまふ。まともな苗でも間隔のために犠牲にしなければ、ちゃんとしたのはとれないのに、いざ幼苗の群れにむかうとしげんと勢いが萎える。それは幼苗がこのままみんな育つと想い、ウルノグはたくさん穫れなくなるというケチよりも、まともなものも容赦なく抜き去らなければならないという、平等思想に反した行為をしなければならないからのような気がする。

とまあ、ちよつとエラソーなことまで言ってしまったかなと思うわけですが。今は、私としてはやれるだけ好条件は提供し、するのはウルノギくらい。あとは勝手にやってください、とホーレン草を「作って」います。

平成 新訂 諷 誦 撰

待望の回向文集、諷誦文集ができました！

『新諷誦撰』刊行から十一年。

今ここに、『諷誦撰』が生まれ変わりました。

新作、口語調など多数加わり、

従来の文章も整理して、

より一層充実した諷誦撰ができました。



上製・布クロス貼り

定価2,700円 (税・送料込)

◇内容を再吟味。回向文とは何かから考えました。

◇サイズは従来通り、持ち運びに便利な大きさ。

(タテ一九センチ、ヨコ八センチ)

◇総ルビ付。

監修 大室了皓／大谷寿雄／山本康彦
編集 ふじゅせん刊行会 代表・長谷川岱潤

お申し
込み先

ふじゅせん刊行会

〒141東京都品川区上大崎1-9-11 (戒法寺内)

TEL:03-3441-8971 FAX:03-3441-8702

郵便振替0015-8-158563 ふじゅせん刊行会

FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では読者の自由な参加をお待ちしています。
詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、
TVウォッチング、紀行文その他創作等。
あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。
どしどし編集部にお寄せ下さい。

晋山

山田瑞邦
(神戸市)

ある時は烈火の如くまた涙流せしこともこの子等がため

うしろゆびさされるなよのひとことにふかき親子のえにしをおもふ

厳かな晋山式の行列の新命の朱傘晴れにはゆ

法灯の伝持約するこの晋山熱きまなざし注ぐ道俗

京都一千年の歴史に

育まれた巧みの技

京仏壇・佛具は当店に!!

☎六一五 京都市右京区

西京極郡町一〇三番地三

(株)島津法衣佛具店

☎〇七五―三一四―七七六八

FAX 〇七五―三一五―三七五三

秋

誌上俳壇

剝落の鐘樓門に秋日濃し

内堀綾子(小平市)

雨音にまぎれし夜半のちちろ虫

葺き終へし瓦艶めく秋鴉

松本厚子(町田市)

赤のまま撓みの先の雀かな

遺されし蟬の声聴く露天風呂

佐藤雅子(上山市)

昆布採る媼捉えり小樽線

夏萩の二度咲きなればういういし

秋深く「救心」のこして逝き給う

彼岸すぎ枯れたる墓の供花を焚く

まんじゅしやげ敦盛塚も荒れしまま

放哉も飲んでみたのか須磨の月

名月を杯に映して飲み干しぬ

誰もこぬ夕鴈二日目も啼けり

にぎやかに去って今日日の秋遍路

山本美代子(姫路市)

山田瑞邦(神戸市)

児玉仁良(入間市)

事務局便り

事務局便り

●J・FORUM（浄土フォーラム）

ご好評を頂いております、皆様のためのコーナー（J・FORUM）。毎月、投句、投稿を頂いておりますが、編集部ではもっともっとたくさんの作品を、お待ちしております。短歌や俳句、書評随筆や詩、身近な出来事や情報など、先の要領でほとんどご応募ください。私たち編集部では、読者の皆さんと一緒に、この「浄土」をより楽しく、すばらしいものにしていきたいと考えております。

- 1 随筆・歌など……四百字詰め原稿用紙十枚以内
- 2 俳句・短歌・川柳など……四首まで
- 3 その他、本誌の体裁や掲載記事に対するご意見やご感想など、何なりと気軽にお聞かせ下さい。

……適宜

タイトルは自由です。投稿は随時受け付けておりますが、採否に関しては編集部にご一任下さい。また、原稿は返却いたしませんので必ずコピーをおとりの上お送り下さい。採用分については記念品を進呈いたします。

●読者アンケートのお願い

編集部では「浄土」のより一層の充実を図るために、皆様にアンケートをお願いしております。

- 1 十一月号でもっともよかった記事。
- 2 今後、掲載してもらいたい記事、希望する内容。
- 3 法然上人鑽仰会の活動として望むこと。
- 4 その他、ご意見、ご感想など。官製はがきまたはFAXで事務局までお送り下さい。もれなく記念品を差し上げます。どうぞご協力お願いします。（住所、氏名、電話番号をお忘れなく）

平成九年度の会費未納の方は
お早目にお支払い下さい。

振替

法然上人鑽仰会

〇〇一八〇一八二二八七

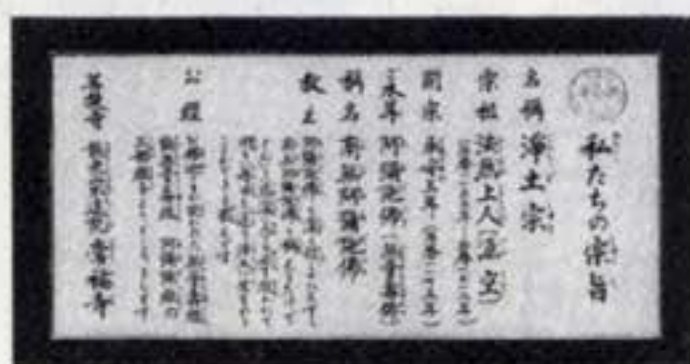
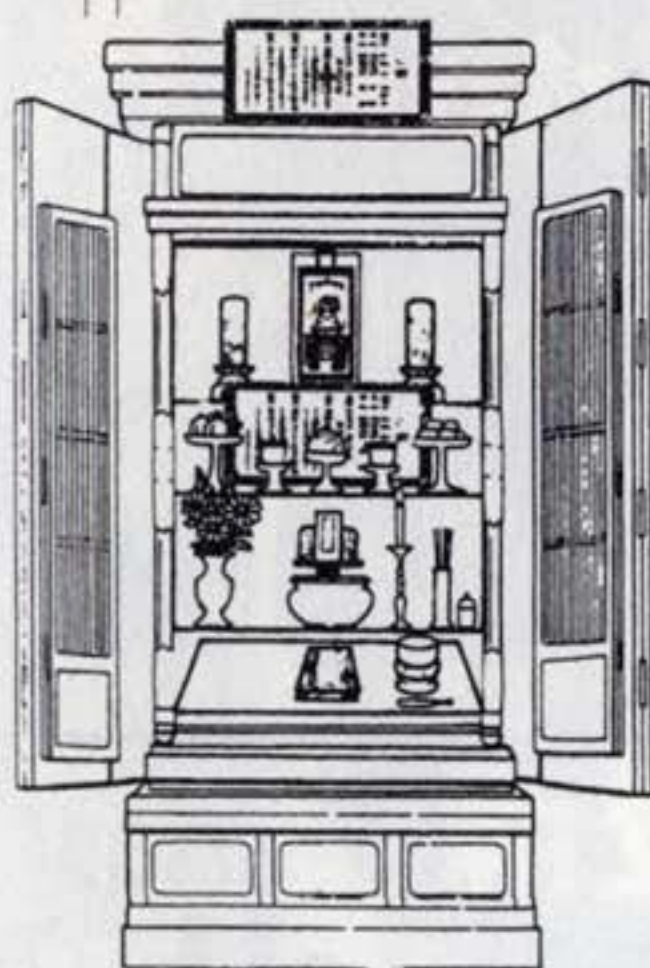
好評
発売中
!!

お寺から檀信徒へ

宗旨布教額

家の仏壇の上に掛けるものです。
菩提寺とその宗旨がいつも
ひと目で明確になります。

数をまとめて御注文下さい。



定価：大（32.0×18.3cm）735円／小（27.3×14.2cm）420円

注文・問合せは
法然上人鑽仰会

〒105 東京都港区芝公園4-7-4明照会館内
電話：03-3578-6947／FAX：03-3578-7036



昭和
中表紙

足場にて覆いし我が家九月尽

岱潤

我が家の住居と客殿の建物が、新築して十三年になる。地域が高さ十メートル制限であるために、屋根がなく平らな屋上は、昨年の台風でひさしの部分の天板がとんでしまったり、防水が限界といわれ、建物にすっかり足場を架けて修理することとなった。

この際外壁の吹き替えも、と言われ、もう少しと思っていた外壁も一緒にやることとなった。まだまだきれいに思えていた外壁だが、足場越しに眺めていると、ずいぶん古びたんだなあと思えてくるから不思議だ。

工事が終われば、建物は新築同様になることだろう。しかし人間の身体は、こうはゆかない。でも、それはそれでいいのだと思う。人間は身体ではなくその生き方でその価値が出てくるのだ。

先日テレビで、生まれながらに両手、両足を持たない、二十一歳の乙武洋匡君の番組を見た。電動車椅子でさっそうと街を行くその姿に、圧倒させられた。自分に両手両足がないことで、みんなが注目してくれ、めだたていられると笑顔で話し、障害のあるなしに関わらず、誰だって人に迷惑をかけなければ生きてゆけない、問題は自分には何がでるかでしょ、とすべて前向きに考え行動する彼。障害を持っていることで世界を小さくすること、またさせられることを一番に問題にし、そうした道路の段差などのバリアを取り除く、バリアフリーの運動に取り組む。自分の身体に不平を言わないばかりか、むしろ武器にして世の中と戦う姿勢に、熱いものを感じ頭が下がった。(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤

斎藤晃道

村田洋一

石上俊教

佐山哲郎

編集顧問

大室了皓

浄土

六十四卷十一月号 頒価六百元
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷——平成九年十月二十五日

発行——平成九年十一月一日

発行人

真野龍海

編集人

宮林昭彦

印刷所——株式会社 シーティーイー

〒一〇五 東京都港区芝公園四一七一四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三五七八)六九四七

FAX 〇三(三五七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇一八八二一八七

1997年 黒ラベル宣言 発売20周年

もっと、ピヤホールが生へ。



新登場



ピヤホールの喉ごし

サッポロ<生>黒ラベル

さらにおいしくなって新登場



ビールは、20歳になってから。あきかんはリサイクルへ

●ご協力をお願い。自動販売機による酒類の販売は午後11時から午前5時まで停止されています。サッポロビール株式会社

Cima, Cima.



ここにニッサンの最高があります。新しいシーマ

シーマがあることで、あなたの生活にどんな感動と満足が生まれるだろうか。私たちは今、大きな自信を持って話せます。技術を注ぎ、性能に妥協せず、あらゆる状況で、「これぞシーマ」の乗り心地を楽しんでいただけると。あなたがクルマに理想として求めてきたことが、こんどのシーマに実現できたと。すみずみまで「ニッサンの最高」にふさわしい仕上り。風格と躍動感。ひとたび走り始めれば、そこにはもっと深い歓びが待っています。シーマ/シーマ/あなたの熱い賞賛の声が聴こえそうです。日本車初。全車、SRSサイドエアバッグ標準装備。運転席・助手席に装着。側面衝突時の胸部に加わる衝撃を緩和します。大きく進化した4.1ℓ V8エンジン搭載。シーマのために開発。優越感あふれるスペックが、滑らかで力強い加速を生みます。



Photo: シーマ41ℓV ボディカラー ダークブルー・メタリック・ブラックコートーン(P) (※4S8・特別塗装色) 本革シートはメーカーオプション ●全長4970×全幅1820×全高1445(mm) ●エンジンV8 4130cc TWINCAM ●最高出力270ps/5600rpm(ネット値) ●最大トルク38.4kgm/4000rpm ●運転席・助手席SRSサイドエアバッグ ●デュアルエアバッグ(運転席・助手席SRSエアバッグ) ●ABS(アンチロックブレーキシステム) ●V-TCS ●AVシステム(TV機能付) ●運転席オートドライビングポジションシート ※一部車種に搭載。シーマのお求めは、お近くのローレル・スカイライン各販売店へ。

スピードおさえて、いい運転。
シートベルトをしめましょう。

LIFE TOGETHER
 NISSAN

人間のやさしさをクルマに。